

教科等研究会（小・中学校特別支援教育 I 部会）

令和 5 年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

子どもの姿から出発する「分かる・できる」「楽しい」授業づくり
～一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫～

2 研究経過

第 1 回			第 2 回			第 3 回			第 4 回		
6/9	40 名	甲佐中	8/3	甲佐中	講話 実践紹介	11/27	甲佐中	自立活動の 授業づくり 情報交換	1/26	甲佐 中	授業研究会 年間反省

3 研究の概要

(1) 研究の内容

今年度は、自立活動の指導支援について、以下の内容で研修を行った。

第 1 回：①今年度の活動、②研究組織編成、③町別協議

授業研究会は毎年 1 回、各町で持ち回る。今年度は御船町の担当。

第 2 回：①自立活動についての講話

講師：熊本県立菊池支援学校 宮崎亜紀 指導教諭

②実践の紹介（班別）

第 3 回：①自立活動の授業づくり

提案者：御船町立御船小学校 高本拓朗 教諭

助言者：熊本県立菊池支援学校 宮崎亜紀 指導教諭

②情報交換

第 4 回：①授業研究会

授業者：御船町立御船小学校 高本拓朗 教諭

助言者：熊本県立菊池支援学校 宮崎亜紀 指導教諭

②年間反省

(2) 成果と課題

①成果

- ・ 第一回目の研修で学びたいことアンケートをとり、「自立活動の実践」が一番多く、年間を通して自立活動について学ぶことができた。また、同じ指導教諭が来ていただき一貫した学びができたこと数多くの意見が上がった。
- ・ 第 2 回目の研修は、情緒障がい部会と研修内容が一緒だったため合同で開催した。特別支援教育の会員数が多くなり、知的障がい部会と情緒障がい部会は分かれての研修が多い中、一緒に開催できたことは有意義だった。また、教育界全体が指導案から構想案に変わる中、自立活動については構想案では表記しづらいという意見がでていた。指導教諭から、指導案例を紹介してもらったことで、とても参考になったという意見が多く聞かれた。
- ・ 第 3 回の研修では、よりよい自立活動の授業にするため指導案の検討会を行った。協議の柱「知的自立活動において、集団の中でどのように授業を組み立てるのか」から、班別協議でアイデアなどを出してもらった。また、個々に迫るために少人数で自立活動の授業を組み立てた方がよいと助言をいただいた。

②課題

- ・ 第 2 回の研修後半、実践の紹介では、障がい種別のグルーピングを心がけるとよかった。
- ・ 第 2 回、第 3 回については、授業代替えの調整が難しく参加ができない会員が複数名いた。

4 実践事例

(1) 授業研究会の概要

第 2 回目と第 3 回目後、2 度の事前検討会を経て本時の授業を実施した。自立活動における授業者の工夫と意図があり、指導案が丁寧に作りこまれていた。また、自立活動の授業を通して児童の変容が見られるものであった。

なかよし1組(知的) 自立活動 学習指導案

日時 令和6年1月26日(金)

場所 御船小学校 なかよし1組教室

指導者 教諭 高本 拓朗

1 題材名

「みんなであのしんで すごろくをしよう」

2 児童生徒の実態と指導目標

児童生徒名		健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
A	実態等	個人情報のため省略					
	指導目標	<p>【長期目標】1年間の指導目標:感情をコントロールする方法を3つ身につけ、注意や集中を持続させながら最後まで課題に取り組むことができる。</p> <p>【短期目標】学期等の指導目標:感情をコントロールする方法を1つ身につけることができる。</p>					
	指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・感情が高ぶったり困ったりした時に気持ちを静めることができるように、感情をコントロールする行動や言葉を使えるようにする。 ・達成感を味わって自己肯定感を高めるために、途中で投げ出さずに最後まで課題をやり遂げられるようにする。 					

児童生徒名		健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
B	実態等	個人情報のため省略					
	指導目標	<p>【長期目標】1年間の指導目標:自分の気持ちを理解して適切に他者に伝え、友達とのコミュニケーションを楽しむことができる。</p> <p>【短期目標】学期等の指導目標:自分の気持ちを理解して他者に伝えることで、友達とのコミュニケーションを楽しむことができる。</p>					
	指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを適切に表現するために、感情や意思を表明するカードを活用する。 ・本人にとって可能な手段で、より円滑なコミュニケーションを図ることができるように、カード以外のコミュニケーションの方法を身につける。 					

3 題材について

(1) それぞれの児童生徒における題材の意義と指導目標等

	題材の意義	題材における指導目標	ゴールでの期待する姿
A	個人情報のため省略	・主体的に最後まで学習に取り組むことができる。 ・ふわふわ言葉を使い、周りの人と楽しく活動できる。	感情をコントロールしながら、最後まですごろくを楽しんだり、困っている友達を助けるような発言や行動をしたりする姿。
B		・自分の感情や意思を表明することができる。 ・ゲームのおおまかなルールを理解し、友達と楽しむことができる。	すごろくのおおまかなルールを理解し、意思や感情を表明しながら、友だちと一緒に活動することを楽しむ姿。

(2) 題材計画

次	時間	学習活動	児童生徒の指導内容	
			児童生徒 A	児童生徒 B
1	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・すごろくを体験する。 Ⅰ ・「なかよしすごろく」で、みんなで楽しみながら協力してゴールをめざすことを知る。 Ⅰ ・「なかよしすごろく」を製作する。 	個人情報のため省略	個人情報のため省略
2	Ⅰ (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・「なかよしすごろく」①をして、改良点を考える。 Ⅰ ・「なかよしすごろく」①を改良する。 Ⅰ ・「なかよしすごろく」②をする。改良する。 Ⅰ ・「なかよしすごろく」③をする。 		
3	Ⅰ	・振り返りをして、なかよし学級や交流学級の友達を誘って活動するための見通しを持つ。		

4 指導に当たっての留意点

- 活動の見通しを持たせるために、学習予定表を示したり、毎時間の個別のめあてを掲示したりして、何をすべきかを可視化する。また、不安感を減らすために、全体と個別で丁寧に説明し、質問を受け付ける時間を設定する。
- 意欲的に活動できるようにするために、すごろくのフィールドは児童が好きなものや興味のあるもので装飾する。競争ではなく協力を大切にするために、ゴールのない円形のすごろくにしたり、二人で一つのコマを進めていく方法にしたりする。
- すごろくのお題には、個人の課題を克服するために日常的に行っている「スキルアップ」の内容を盛り込む。
- 不安感を減らしたり、個に応じた学習を楽しむことができるように、まず目のお題を選択したり、変更したりできるようにする。コース内を色分けして課題の難易度を変えたものを準備する。また、その時にだれでもゲームに参加することができるように、各マスのお題はマジックテープの着脱式にしたり、一人のお題に全員が参加できるものも準備したりする。
- 事前に「ふわふわ言葉」について学習をしたものを掲示して、いつでも振り返って使えるようにする。自分の思うとおりに行かない時の気持ちのコントロールの仕方を事前に個別に確認し、「ま、いっか」が言えたり、サインで表したりできるようにする。
- それぞれのめあての達成につながる好ましい行動や言葉を強化するために、活動中にフィードバックしてシールを渡す。シールは台紙に貼り、振り返りの際に視覚的に活用できるようにする。
- 感情や意思を表す絵カードは、だれでも使えるようにしておく。
- 学習したことを広げるために、題材のまとめの段階では、交流学級の友達や先生たちと一緒に活動できるようにする。活動に誘う言葉やお礼を伝える学習を進める。交流学級の友達になかよし学級の友達や学習の様子を知らせて、仲間づくりのきっかけにする。

5 本時の展開 「自立活動」 学習指導略案

日 時:令和6年1月26日(金)
 指導者:高本拓朗
 対象児童生徒:A・B

児童名		A	B
年間指導目標		感情をコントロールする方法を3つ身につけ、注意や集中を持続させることができる。	自分の気持ちを理解して適切に他者に伝え、友達とのコミュニケーションを楽しむことができる。
本時にねらう姿		感情をコントロールしながら、最後までですごろくを楽しんだり、困っている友達を助けるような発言や行動をしたりする姿。	すごろくのおおまかなルールを理解し、意思や感情を表明しながら、友だちと一緒に活動することを楽しむ姿。
本時の目標		感情をコントロールしながら落ち着いて参加し、困っている友達に気づき、改良案を提案することができる。	すごろくのおおまかなルールを理解し、意思や感情を表明しながらお題をクリアすることができる。
時間	学習活動・指導上の留意事項	準備物	
5	1. 「なかよすごろく」①のルールを確認する。 ・わからないことは質問する。 ・ゲーム内で使いたいふわふわ言葉を確認する。 ・個人のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れを示した掲示物 ・ルール説明の掲示物 ・ふわふわことばの掲示物 ・個人のめあて ・「なかよすごろく」① ・気持ちカード 	「なかよすごろく」①のルールを確認する。
15	2. 「なかよすごろく」①をする。 ・お題にある内容を次々にこなしていく。 ・必要に応じて自分や友達にふわふわことばを使う。 ・発言や行動のモデルになるように、教師もゲームに参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふわふわことばの掲示物 ・「なかよすごろく」① ・サイコロとルーレット ・気持ちカード ・ポイントシールと台紙 	「なかよすごろく」①をする。
15	3. 改良点を考える。 ・楽しかったことやできたことに加え、もっとレベルアップできそうなことがないかについて振り返る。 ・相手を励ますふわふわ言葉を使えていたか振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちカード ・改良点を短冊に 	改良点を考える。
10	4. よかったことを発表する。 ・うまくいくように改良点が出たことに対して称賛する。 ・ゲームの中でどれくらい言葉を使うことができたのか、振り返る。 ・どんな点をスキルアップできたか振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちカード ・よかったことを短冊に 	よかったことを発表する。
評価			
エピソード記録			